

歐人に封ぜられた漢字及漢文學

内田 魯庵

(一) 世界の改造の用材産地は亞細亞の森林

世界が革命に脅かされてる根源は東方思想の西漸に由來する。ボルシエウキズムも導火線となつたのはマルクスであらうが、爆發性を與へたのは東方思想の浸潤であつた。一體露西亞人は民族としては歐羅巴人よりは寧ろ蒙古人であつて、外貌が杜翁トルステイが曾かつてアイヌ人に近似すと稱されたほど亞細亞人に近いは勿論、思想も性格も亞細亞人である。其の特有の虚無思想が本來亞細亞の産物で、支那には早くから此種の思想の潮流が流れてゐたのは嘔々どどするまでも無く誰も知つてゐる。

カイゼルが黃禍を説いたのは日清戦争後、もう三十年になるが、カイゼルが日本の武力に警戒したのはまだ皮相の短見で、日本の武力よりも最つと恐ろしいのは亞細亞に古くから磅礴ほうはくする超國家思想であつた。此の思想の一鱗いちりんがバクーニンに料理されマルク

スの藥味を加へてボルシエウキズムとなつたのだ。近來支那及び蒙古の赤化が頻りに恐
れられてゐるが、赤化するものは露西亞人であらうが赤色塗料の原産地は亞細亞である。

亞細亞の思想の脅威は啻に政治ばかりぢや無い。哲學に藝術に歐羅巴の傳統を破壊
した十九世紀以降の反逆精神は直接に間接に亞細亞から齎もたらされてゐる。行詰つた文
明の沈滞は本質的に全く異なつた文明の細胞を移植して新らしい生命を與ふる外は無
いので、希臘傳統の文明が老衰して生氣を喪つた以上はどこからか傳統外の文明の種
子を齎もたらして更生の文明を建直すのが當然でもあるし又必然的に建直さねばならなく
なる。此の更新の趨勢は半世紀末から現世紀の初めへ掛けて動き出し、政治的に思想的
に藝術的に各々一齊に革命的旋回運動を開始した。カイゼルが欣天翻地の大賭博を打
つたのも亦此の動搖の機運を察して賽を投げたのだが、惜い哉俊傑時務を識らず、縦横
計成らざる中に内部から崩潰して世界の地圖を塗換へない中に獨逸の地圖を塗換へら
れて了つた。今日の世界の動搖は現代文明に對する根本的の不滿であつて一部の塗換
へや模様換へで除かるべきでは無い。土臺から掘崩して希臘以來巢喰ふてゐた白蟻を
絶やし、新らしいプランを立て、新しい用材で建直さなければならなくなつてゐる。此
の根本的改造の用材が亞細亞の森林に忘れられてゐたもので、亞細亞の舊文明の復興は
今や世界の脅威となつてゐる。

(二) 世界的にはまだ公開されない漢文學

歐洲人の所謂いはゆるシノロギーが氣を吐くのは主として古藝術方面である。就中なかんづく噉嗶を主として新疆各地の學術的探險及び出土古文の考古學的研究は前人未着手の新領域であるから、東方學者を驚嘆せしむるものがあつて、此方面では日本の學者の如きも亦殘念また乍ら歐洲人の後塵を追はざるを得ない。が、古典の尋究殊ことに古文の校註、音韻の研究、鐘鼎金石の考證等に則つて歐洲人は猶ほ未だしき處がある。之といふのは漢字の難解なるは現代歐洲語（のみならず古代語の希臘やヘブライよりも）以上であつて、簡單なる音字に馴れた歐洲人に取つては種々な複雑の困難を伴ふて容易に習得出来ないからである。

羅馬字にしる希臘字にしる將たヘブライにしる梵字にしる惣ての音字は電信音符や盲人の點字と等しい音の符號であるから、言語の傳達器であるが文字其物に意義があるのでは無い。が、漢字は義字であつて各々の概念を包藏してゐるから漢字で作られた漢文は一々文字の意義を玩味しなければ完全なる理解を得る事は出来ないのである。他の外國文が單なる音字の連續であつて、言語にだに通ずれば文義は自づから理解されると相違して、漢文は文字其物からして習得しなければならぬ二重の骨折を要する。

啻たゞに外國人に困難であるのみならず、支那人自身が古文の解釋に苦み、此頃の若い支那人の中には古文解釋に於おては日本人以下のものが珍めづらしく無い。況いはんや北京語や廣東語から初める歐洲人の尋常語學習練法では古文の解釋は出來ないので、シノロジーの權威と目される學者の中にすらも古文解釋力の程度が疑はれるものがある。

夫故それゆゑに歐洲人の能よくし得る支那研究には自おのづから限界があつて、廣大なる支那の古文獻はまだ幾何も世界には知られてゐないのである。單なる實物鑑識や民族學的又は考古學の見解に據よる推定斷案には往々首肯するに足るものもあるが、文獻の知識を缺く爲めの意外な歴史的錯誤や、明白な事實や時代を無視する牽強附會けんきやうふわいの獨斷や、文獻的價値の無鑑別もとに基もとひする俗書偽書の妄說謬傳の引用や、文字の解釋の不備の爲めに生ずる飛んでも無い誤解を免まぬかれない。此點は啻たゞに支那のみならず同じく漢字を使用する日本の文獻に封しても亦同様である。随つて單なる學術の見解や實物調査のみで出來る出土の遺物の考古學的研究のやうなものになると西人の著書中には往々卓出した考察が見え、生中文獻なまなかに捕はれない爲め却て意外の創見が聽かれるが、多少でも文獻の力を借りなければ出來ない史的考證や、文字の含蓄や魅力を味はなければ出來ない詩文の鑑賞のやうなものになると歐人の批評には傾聽するに足るものが甚だ少ない。且多かつくは先人の説を借用し或は他人の口吻を擬まねるので、白家獨發の所見と思はれるもの

が頗る稀れである。

有躰に思ふまゝを卒直に云へば、私は支那文學の眞味は歐洲人には到底解るまいと思つてゐる。凡そ一國の文學は其の國語に精熟するは勿論として其の國民性や時代思想や史的背景を知らなければ解らぬものだが、就中支那に到つては第一に國語の本質や組織や系統が歐羅巴とは根本的に全く異つてゐて、歐洲人には容易に咀嚼出來ないで、一知半解に鵜呑にしたのでは了解されない歐人未嘗の香味がある。

例へば支那の詩である。私の一家言が許されるなら私は詩では支那が一番だと思つてゐる。が、アレを李白にしる杜子美にしる、あの意味だけを英譯なり佛譯なりしたら味も卒氣も失くなつて了ふ。ドコの國のでも文學は其の國語で讀まなければ完全には味はれないが、殊に支那のは文字に含蓄があつて夫自身が各々詩の片鱗を作つてゐるのだから文字を離れては詩の生命は失はれて了ふ。晉に詩ばかりで無く、詩文と列べて云ふ文章も亦立派な散文詩であつて文字の力に負ふてゐる。支那人の文字の洗煉に精進勤苦するは世界のドコにも求められない藝術的苦行であつて、一字の推敲の爲めに瘦せるといふは決して形容で無い眞實である。此の苦吟は文字を單なる音符としてのみ考ふる歐洲人には到底想像されない漢字の玄妙の三昧境である。従つて歐洲人には漢詩漢文の意味は理解されても、漢字の微妙な音律の美や含蓄する不盡の韻趣や餘情は、到

底鑑賞する事は出来ないのである。

畢竟するに漢字の魅力を解さないでは漢文學の臭妙を究める事は出来ないので、漢詩漢文の髓腦は歐人の鑑賞力の圏外である。歐人が他日若し深く漢文學に參尋して三代の銅器、六朝の石佛、宋元の繪畫に等しい歐人未知の不思議な文學の別天地があるのを知つたなら、上代支那の文學の偉大に驚嘆する事銅器や石佛の比では無いであらう。要するに支那の文學はまだ歐人には漢字の咒符で封ぜられた石窟の祕寶である。此の咒符を解く力のあるのは日本人であるが、由來歐人の尻馬に乗るを常習として歐人が無視し或は黙して云はざる間は尻込して恰も知らざる如くである。が、噉惶に於けるペリオの如く、龍門に於けるシャヴワヌの如く、此の漢文學の祕鑰を解いて世界に此の祕寶を紹介するものがあつたら、世界の最大詩人と歌はれる歐洲古今の詩聖の中には電燈に遭ひたる油燈の如く頓にほかに光輝を稀うするものがあらう。だが、歌麿や廣重は奇麗だから女兒供にも喜ばれるし、銅器や石佛は薄汚なくとも古鏽があつて好事家に愛翫されやうが、文學に共鳴するには少くとも相應の藝術的教養を要するから、上代支那の文學の價值が一般に承認されるまでにはまだ相當の歲月を經るだらう。

が、漢文學のメリツトが承認された曉あかつきは恐らくツタンカーメンの遺蹟の發掘が世界を震撼したよりもより以上の大波紋を世界の文學に與へるだらう。

(三) 漢字禮讚

歐人に封ぜられた漢字及漢文學

矢野龍溪の漢字節減説が提起されてから纏^{やが}て四十年になる。龍溪の千字説だか二千
字説だかは好奇的に一部に迎へられただけで全般には餘り影響しなかつたが、此の龍
溪案と同一精神の漢字節減が此頃^{やう}漸く各新聞者間に協定されて多少の不便を忍び多少
の反對に遭ひ乍^{なが}らも實行されてゐる。が、古來漢字が絶えず淘汰され又變改されて
るのは古今の字典を比照すれば直ぐ合點される。漢字に限らず凡そ言語文字は之を使用
する民族が亡びない限りは生きてゐるので死物では無い。成長もすれば廢棄されもす
るのは生物の新陳代謝作用と同様である。歐洲語でも東洋語でも此點は皆同一である。
但^ただ漢字は言語で無くて各々獨立の意義を有する文字であるから、歐洲語が死語廢語と
ならねば日常談話文章からは勿論、普通の字典からも校刊の都度^{ごと}除かれる如くに輕
易に存廢を決せられないものがある。が、字典に在るものが實際に盡^こく使用されて
るので無いのは歐洲語でも同様で、マーレイの如き學術大字典を描いて尋常字典に徴して
も明白である。漢字が獨り死字廢字に富むのでは無い。事新らしく漢字節減を主張し
ないでも漢字は二千年來絶えず變改淘汰されてゐる。但だ時代の文化に引摺られた自
然淘汰には少しも無理が無いが、少數個人が小さな範圍の都合から割出した輕易な改廢

は矢張其の範圍内だけで行はれるだけで、全般に及ぼす力も無く、又永續性も無い。

畢竟するに漢字節減は漢字全廢の前提なる試験案で、根本の國字改良案なる羅馬字説と同じ非漢字運動である。同じく非漢字運動でも假名説は一部國語學者以外は餘り人氣は無いが、羅馬字説は西歐文化を背景にして有識階級者に相應の勢力を持つてをる。今日漢字を禮讚するが如きは^{もつ}以ての外で、^{ほか}頭の化石した前世紀の遺物の如く輕侮される。だが漢字は、羅馬字可否説は^{しば}姑らく別問題として、果して文化の圏外に排棄されべきものだらう乎。

非漢字説の根底に横はるのは歐人の音字全能の信仰である。殊に羅馬字は今日世界の先進文明國の言語同一してゐるので、羅馬字ならざるものは文字に非ざる如くに妄斷して、義字、象形字の如きは一括して未開の產物と見做されてをる。が、歐人の知る象形字といふは未成長のまゝ、^{エジプト}亡びた埃及やヒツタイト等の原始繪文字だけで漢字の如く完成した象形字があるのを知らないから、象形字と云へば直ちに文字の發生の搖籃期の產物と見做して漢字をも亦其中に一括するが^{かれら}渠等の文字論である。焉んぞ知らん、漢字は龜板獸骨の殷虛文字から發足して^{ちゆうぶん}籀文となり^{てんれい}篆隸となり^{しやうてい}鐘鼎となり^{ひげつ}碑碣となり、歴代二千年間の淘汰を経て完成して今日の形となつたので、早くから成長の停止した埃及其他の原始文字と同一に扱はれるべきものではないのである。

歐人の漢字を論じたものは有る。支那に關する歐人の著述には漢字に及んでるものが屢々ある。が、埃及其他の象形字とは系統を異にした特殊の發達をしたのを多少認めてゐるが、漢字の研究は僅に門を覗くだけでも容易で無いので、大抵は驚異の眼を睜つて其の表面を模索するに過ぎない。上代象形字及び東洋字及び歐洲古代竝に中古字の簡單なる沿革略史として此頃の名著に數へられるメエリンの臨書史の如きも亦漢字を論じて歐人の未だ餘り云はざる説文にまで及んでるが、歐人の漢字研究はマダ僅に其緒に就たばかりである。近來所謂シノロギスト側に漢字の研究に指を染むるものもあるが、多くは考古學の見地からして埃及文字やアツシリヤ文字をデザインフアールすると同じ態度で漢字に對してゐるので、イデイオグラフとしての漢字の學術的價値を究めてゐるのには無い。歐人には實は言語史や言語學は有るが文字史や文字學は無いので、漢字は恰も未知の領土の産物であるから驚異を感じるだけで手の下しやうも無いのである。丁度コ、アや珈琲ばかりしか知らないものが仙家の蟠桃を與へられて、喰へるもの乎喰へないもの乎、毒になる乎藥になる乎が解らないで惘然として眺めてゐるやうなものだ。

文字は元來實用の簡易をのみ主として考ふべきものであらう乎。假に文章が或る修辭學者の主張する如き『おさん泣かすな馬肥やせ』的簡單達意を最高極致とするなら電信文は最大文學となるわけだが、文字も亦簡易を單一目的とするなら羅馬字よりは電信

音符が遙かにより以上進歩した文字では有るまい乎。が、文字は唯夫^{たゞそれ}だけで足るだらう乎。或る概念又は情念を具象する言語を記するに唯聲音を現はすだけで足るだらう乎。助動詞や接續詞や前置詞や簡單なる物名のやうなものなら聲音だけでも足るだらうが、學術上の複雑な頻繁な嚴密な概念や、微妙な美しくしい繊細な情想や、種々な抽象詞を唯聲音だけで記するのは物足りなくは無からう乎。大文學や大哲學を披瀝するに音字だけでは著者の思想や感情を十分遺憾なく完全に書き現はす事が出来るだらう乎。

恁^かう云つたら、現にミルトンやゲエテやカントやベエコンや世界の大文學大哲學が英語や獨逸語で書かれてゐるのが音字で事足る證據ではない乎と、皮肉を云つて筆者の無知と沒常識とを哄笑するだらう。が、假に是等の大哲文豪が支那に生れて漢字で書いたなら最つと雄大深奥な大文學大哲學が世に残されたかも知られない。音字にも象形字にも各々長短があるから、漢字のやうな傳統の語義と窮屈な句法の定式とを伴はない歐洲語で書いたればこそ煩瑣^{はんさ}な嚴密な大哲學や幽遠^{いうえん}縹緲^{へうめう}な大文學をも自由に思ふまゝ、言はんと欲するものを言盡したのであると云ふのも一理であるが、同時に若し含蓄の深い詩趣に富んだ漢字で書いたならより一層雄大なより以上深酷な莊嚴崇高^{さうごんすうかう}の雄篇大文章が残されたかも知れないと想像されぬ事も無からう。李杜や老莊の歐譯が雄渾な魂魄飄逸^{こんぱくへういつ}なる情趣、幽遠^{いうえん}玄妙^{げんめう}なる思辯の光輝を失つて、田舎親爺の野良唄や芋堀坊主

のたゞのお談義となつて了つたのを見ても思ひ半ばに過ぎる。

支那は一に文字國といふが、市井しせいの少年も早くから訓話を授けられて文字の驅使に長じてゐる。例へば門垣や軒に掲げる楹聯えいれんの如き、多くは慣用の語句を連ねたものであるが、往々諷誦に値ひするものがある。商家の看板に等しい楹聯の中にも奇拔秀拔の金句を列ねたもの或は金玉鏗鏘の響きのあるものがある。之といふのは全く漢字の魅力に負ふので、漢字は個々其物が各々詩であり概念である。夫故に詩文と區別する散文も亦、四六駢驪のやうな特殊の體を措いても皆一つの詩である。支那人の著述では無いが、漢文で書かれた山陽の外史が曾つて歴史よりは敘事詩であると或る人に評された事があつたが、同じ筆法からすれば司馬遷の史記は遙かにより以上の敘事詩であつて、ホーマー、ヴワージルと光輝を争ふに足るものだらう。又例へば離騷や莊子の如きは冥想詩又は寓意詩として古今東西に比ぶものが無い大文學であらう。單なる思想から云へば印度のマハヴワンサジヤタカの如き之に勝るものであらうが、漢字は尋常音字の企くはだて及ばざる魅力を持つてゐる。

例へば漢譯佛典である。原典は單なる聖諭或は教説であつても著るしく色彩を加へ暈影を生じ音律を響かしてをる。世には漢譯經を原典と照らして其の價値を問ふものがあるが、翻譯として忠實であるか否かは別として、漢譯經は漢譯經としての獨立の文

獻的光輝を持つてをる。原典を知らずして濫りに憶斷するは大膽であるが、文學として恐らくは原典に勝るの光輝があらう。歐譯佛典を讀んだものは誰でも感ずるだらう。漢譯では險澁難解或は混沌摸糊として容易に核心を捉へる事の出来ないものが歐文で讀むと極めて平易明晰に了解される。其の代りには聖典の尊嚴味が失はれて信仰を起させる威力が鈍くなる。簡易一天張から云へば誰にも解り易いに越した事は無いが、敬虔なる信仰を教ゆる經典としては尊嚴も亦重大なる要素である。事實、大聖佛陀が諸王梵天阿羅漢大泉比丘に向つて獅子吼した説法が歐譯諸經に傳へられる如き平明輕易の辻講釋のやうなものであつたらうとは想像されない。等しく同一原典から譯出したものが、一は莊重崇嚴一は平明輕易といふは畢竟するには象形字と音字との讀者に與ふる感銘の深淺に由るので、漢字が感銘を深くする所以は決して單なる暈影では無くして、漢字の含蓄と象形の威壓が音字の表現不足を補ふものがあるからでは無い乎。

歐人が漢字を研究して若し爰に想到したなら、完成した象形字の表現的效率は遙かに音字を挺ぬきんずるものがあるを認めて深く慮かる處があるべきである。現に數年前の或る新聞に、(此の新聞切抜を逸したので姓氏を忘れて問題とする事が出来ぬが)獨逸の某大學教授は文字としての漢字の優越を認めて、少くも音義の明確嚴密を要件とする學術用語は漢字を用ゆるが適當であるといふ説を立てたと聞くは誠に空谷の梵音くうこくである。

世界が漢字に目覺めるは決して遠くは有るまいと思ふ。

之に就き憶出されるは今から三十年前、或人と偶然支那畫の藝術的價值を論じた時、南畫の優秀を説いた私の批評は散三に扱下しきまわろされた。其時私は（實は半分は負惜みに）、成程希臘以來の傳統藝術を基礎とする今日の美學からは支那畫は一顧を値ひしないだらうが、若し歐洲人が支那の繪畫説を聽き宋元の畫に深く參入したなら今日の歐羅巴の美學は一變するだらうと云つて益々ますます笑はれた。が、其時から三十年、希臘以來の傳統の因襲を破つた新藝術が勃興して佛獨藝壇を席卷したのは主として東洋畫の影響であつた。藝術批評も亦因襲を脱して主觀を高調し、謝赫しゃかくの立法と張彥遠の畫論が引張出されるやうになつた。

文字に對する歐人の考察も亦、完成された象形字の學術的價值を漢字に由て承認したなら、音字全能の舊夢から醒めて聲音本位の文字を一變する繪畫に於けると同じならん。歐人の口から漢字禮讚の聲を聽くのも餘り遠くは無いので、其時我が非漢字論者も亦啓發されて俄に歐人の尻馬に乗つて漢字復興の聲を揚あげるものもあらう。少くも今日の非漢字説は多少改造されて、漢字排斥の火の手も亦弱められるだらう。（但し漢字禮讚は非羅馬字説では無い。羅馬字に就ては別に意見があるが、別問題であるから他日の機會に譲る）